

## 2024年度(令和6年度)事業計画書

デイサービスセンター長宝

### 1 施設を取り巻く現状と課題

#### (1) 事業の種類及び利用定員

事業種：通所介護及び地域支援事業

利用定員：31名

契約者数：34名

#### (2) 県市町村等からの受託、補助事業等

・C型事業（由布市元気アップ教室）

#### (3) 地域における公益的な取組

・地域の清掃活動として「クレンジンググリーン作戦」月1回実施

#### (4) 運営方針

法人理念である「共歩・共笑・共育」のもと、利用者の皆様が、何歳になっても生き生きと元気に過ごすことができるよう、心身機能・認知機能の維持・向上に努めます。また、本人とご家族の想いに寄り添えるよう、明るく相談のしやすい職員であることと、よい環境作りに努めます。

介護支援専門員に対し、日々の利用者の様子や変化について密に連絡を取り、個々にあった必要な支援が提供できるよう連携を図ります。

利用者様には、機能維持を図るため、自立支援に努めるとともに高齢になっても自分の役割を見つけ、日々の生きがいや活動意欲につながるような支援をしていきます。

## 2 施設の実施策と取組の方向性

### (1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	SNS を使って働く職員や事業所の様子を発信する。
現状と課題	編集や投稿の技術不足もあるが、撮影・編集を行う職員と時間の確保が難しい。
取組の方向性	経営企画室にも協力してもらい、行事や仕事風景を投稿していく。職種、性別、年齢問わず様々な職員が参加する。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	新人・中途採用者に対し、統一した指導ができる体制づくり。
現状と課題	職員をチーム分けしましたが、うまく機能できていない。また、チームで指導していくことへの意識が薄く、主任、副主任に頼りがちである。
取組の方向性	まずは正規職員がしっかりと意識を持ち、支援の統一を行う。チーム責任者を中心に、支援内容の確認や指導を行う。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	自らが率先して業務を行い、出来ない事はチームで協力し合うことで働きやすい職場環境を作る。
現状と課題	業務に追われ、心の余裕やコミュニケーションを図る時間がない。パート職員を含めた会議が出来ていない。支援に入る全職員の意見を聞き、業務改善をしていく必要がある。
取組の方向性	前年度行った職員懇親会の時間を、パートを含めた職員会議に変更する。パート・臨時の意見も吸い上げ支援に活かせる会議にし、意見を言い合うことで職員間のコミュニケーションに繋げる。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	リフレッシュ休暇を取得する。
現状と課題	人材不足で業務量が多いことと、属人化により取りたいタイミングで年休が取れない。
取組の方向性	人材を確保し、業務量を分散、引継ぎを行い、年休を取得しやすい環境にする。年に一回はリフレッシュ休暇を取得する。
実施施策	業務内容の見直しと分散。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	介護技術の向上。
現状と課題	臨時、パート職員は初任者研修や実務者研修を受けている職員が少ない。また、介護予防に対する知識が乏しい職員が多い。
取組の方向性	新人職員、臨時、パートに関係なく初任者研修や実務者研修を受けていく。また、全職員の積極的な研修への参加。

実施施策	インカムの導入と活用
現状と課題	広いフロアで、入浴支援やトイレ誘導など、数人の職員が同時に行っており、職員同士の声掛けが必要。現在は電話を用いたり、大きな声で呼び合い、聞こえない場合は呼びに行くこともあり、効率が悪い。補助金を活用し、インカム導入を検討していく必要がある。
取組の方向性	インカムを導入し、その場から職員への伝達や呼び出しができるようにし、数名が同時に情報共有できる環境にすることで生産性の向上に繋げる。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	環境整備を行い、リスク管理の強化を行う。
現状と課題	心身機能の低下により、転倒・誤嚥等の危険性が高くなっている。
取組の方向性	それぞれの健康、歩行状態を観察し、リスク因子

	を分析する。事前に予防できることは担当者会議等で話し合い、リスク回避に繋げる。また、外回りの環境整備に努める。
--	---

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	C型事業の継続。
現状と課題	C型の利用者の数は多くないが、口コミ等で途切れることなく利用が続いている。月平均 3~4 名が利用している。
取組の方向性	チラシ等を利用し C 型事業の広報を行う。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用者の安定確保。
現状と課題	周辺に他施設が多く、利用者が分散しやすい。送迎職員の確保が難しく、阿蘇野地区など、距離のある利用者を受け入れられない。
取組の方向性	引き続きケアマネジャーと連絡が取れやすい関係を作る。送迎が出来る職員の確保。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	多様な利用者へ対応可能な職員の育成。
現状と課題	利用者の高齢化が進むことで、重度介護者の受け入れ需要が高まってくることが予測されるが、職員の知識・技術不足している。
取組の方向性	研修等に参加し、他の職員へ共有を行う。認知症への対応と介護技術の習得。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	施設内での連携強化を行う。
現状と課題	兼務していない職員や、有料老人ホームに入ることが少ない職員は有料老人ホームでの情報が把握できていないことが多い。
取組の方向性	共有のシステム作りと各自の意識向上。

### 3 目標利用率

平均利用者数	31名	28	28	28	29	29	29	29	30	30	30	30	30	29.17
個別機能訓練実施者数	31名	21	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	21.50
C型事業利用者人数	6名	3	3	3	3	4	4	4	4	5	5	5	5	4.00

### 4 固定資産物品購入計画 (単位:千円)

名 称	執行見込額
ルンバ	1 5 0
インカム 6 台	3 0 0
ウォシュレット	1 5 0

### 5 修繕計画(大規模修繕を除く) (単位:千円)

名 称	執行見込額
エアコン修理	1 5 0

### 6 大規模修繕計画 (単位:千円)

名 称	執行見込額
なし	

### 7 補助金

インカム 6 台 約 1 5 万補助

### 8 介護度

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
2 名	1 名	10 名	15 名	3 名	2 名	1 名	34 名